一綜 説—

未熟心筋 Ca²⁺電流の調節とその発達に伴う変化

勝部 康弘

日本医科大学武蔵小杉病院小児科

Regulation of Ca²⁺ Channels in Immature Cardiomyocytes and Developmental Changes

Yasuhiro Katsube Department of Pediatrics, Musashikosugi Hospital, Nippon Medical School

Abstract

The electrophysiology of the heart changes dramatically during development. These changes in electrical properties are caused by changes in the number (density) and types of ion channels, with resultant changes in the magnitude and kinetic properties of the various types of ionic currents. The alterations in the ion channels are resposible for the changes in the resting potential and characteristics of the action potentials. In this review, we focused on the developmental changes of the L-type Ca²⁺ channel (especially its regulation via β -adrenoceptor, and muscarinic acetylcholine agonsist, tyrosine kinase) and the T-type Ca²⁺ channel. As mentioned in this review, the immature heart differs from the adult heart in both size and function. Therefore, we have to pay attention to the characteristics of the immature heart when we treat neonates and children.

(日本医科大学医学会雑誌 2006; 2: 96-102)

Key words: ion channel, Ca2+ channel, development, immature heart, patch-clamp

緒言

各臓器の形態ならびに機能は、胎児、新生仔、成獣 へと発達とともに変化する。特に、心臓は電気生理学 的に劇的に変化する。

心臓の電気生理学的特性の変化は、それを規定する イオンチャネルの数、タイプの変化にもたらされる が、イオンチャネルの変化は、さらに心臓の膜電位 ならびに活動電位の変化をもたらす(Fig. 1).各種 イオンチャネル(例えば、L型、T型 Ca²⁺チャネル¹⁵、 Na⁺-Ca²⁺交換輸送⁶⁷、Na-K ポンプ⁷、一過性外向き K⁺電 流⁸、内向き整流性 K⁺電流⁹、ATP 感受性 K⁺電流¹⁰⁻¹²、 Na⁺電流¹³)ならびに、その調整機構の発達に伴う変 化に関しては、これまでに数多くの論文が報告されている。最近ではヒト心筋を用いた報告もある^{14,15}.

このように多くの研究成果があり, すべてについて 述べることはできないため,本稿では,われわれの実 験結果を中心に,現時点で明らかとなっている心臓に おける Ca²⁺チャネルの調節機構の発達による違いに ついて述べる.

活動電位

未熟心筋の活動電位の特徴はその幅(APD)が広いことである.例えば、ラット心室筋では、Fig.2に示すように生後1日の幅広い APD から生後3週にかけて著しく短縮し、成獣の非常に狭い APD に近づ

Correspondence to Yasuhiro Katsube, Department of Pediatrics, Musashikosugi Hospital, Nippon Medical School, 1–396 Kosugi-cho, Nakahara-ku, Kawasaki 211–8533, Japan

E-mail: katsube@nms.ac.jp

Journal Website (http://www.nms.ac.jp/jmanms/)



Fig. 1 Currents and channels involved in generating the resting and action potentials. The time course of a stylized action potential of atrial and ventricular cells is shown. Above and below are the various channels and pumps that contribute to the currents underlying the electrical events (Taken from Circulation 1991; 84: 1831-1851). く¹⁶. その変化には、例えば、外向き K⁺電流の増加が 関与し、心筋細胞を過分極し、APD を短縮すると考 えられる.早期胎仔期の心室筋の静止膜電位は浅く(-40 mV~-50 mV)、その後発達とともに深くなり、 成獣の値(-75 mV~-80 mV)となる.早期胎仔期 の心室筋の浅い膜電位は安定性に欠け、自動的脱分 極、ペースメーカー電位(第4相拡張期脱分極)を示 すが、胎生期に進行的に減少し消失する.このように 心室筋の自動能は胎生中期に消失する.自動能消失の 一つの要素として、静止膜電位が発達とともに深くな ることが考えられる.また、別の理由として、未熟心 筋では過分極誘発内向き電流(L)が存在するが、成 熟心筋ではこの電流が消失することが挙げられる.

Ca²⁺チャネル電流

心筋細胞に発現しているのは、L型高閾値 Ca²⁺チャネルと、T型低閾値 Ca²⁺チャネルの2タイプである.L型 Ca²⁺チャネルは、ジヒドロピリジン (DHP) により特異的に阻害されることから、DHP 感受性型 ともいわれ、心拍数の調節や心収縮に主要な役割を果たしている.一方、T-型 Ca²⁺チャネルは洞房結節の 自動能に関与すると考えられている.

L-型 Ca²⁺チャネル

L型Ca²⁺電流(以下Ca²⁺電流)は、心筋の収縮力 を決定する上で非常に重要であるが、ラット心筋で



Fig. 2 Postnatal changes in the action potential configuration of the rat ventricle from the first postnatal day to adulthood. Note that the progressive shortening of the action potential is attributable to abbreviation of the plateau (Taken from ref. 16).



Fig. 3 Developmental changes of the L-type Ca^{2+} current in fetal and neonatal rats. The L-type Ca^{2+} currents were elicited by depolarizing steps, from a holding potential of -40 mV. Current/voltage relationships (normalized as current density [mean \pm SEM]) and shown for the different developmental stages (from day 12 fetal to day 10 neonate). Note that the L-type Ca^{2+} current increased during development (Modified from ref. 2).

---- neonatal 10-d

pA/pF

は, 胎仔より新生仔にかけて急速に増加し(Fig. 3)², 新生仔から成獣にかけて著しい増加は見られない (Fig. 4)⁵. ラット心房筋と心室筋における細胞膜容 量, ピーク電流値, 電流密度の発達に伴う変化を Table 1 に示す.

発達による違いには、上述のような電流密度の差の 他に、チャネル特性の違いがあり、未熟心筋ほど Ca²⁺ 電流の不活性化が、成熟心筋と比較して遅い.この特 性の説明として、未熟心筋で観察される singlechannel 記録上の long-openings が関与しており、未 熟心筋ほど single-channel 上の平均開口時間、開口確 率が大きく、このことにより未熟心筋ほど不活性化が 遅いというのである⁴.別の説明として、リアノジン (筋小胞体のブロッカー)を用いた実験により、未熟 心筋のゆっくりとした不活性化は、筋小胞体の未熟性 によることが示唆されている¹⁷.

自律神経による Ca²⁺電流の調節

神経末端から分泌される神経伝達物質は, 交感神経 節からノルエピネフリンが, 副交感神経節からアセチ ルコリンが分泌され, それぞれの受容体を調節する が, Ca²⁺電流はこれら交感神経ならびに副交感神経に



Fig. 4 Current/voltage relationships and representative current traces in neonatal and adult rat ventricular myocytes. A: The L-type Ca²⁺ current is already well developed during the neonatal period (days 1-7; about 85% of the adult value). B: Representative L-type Ca²⁺ current traces of neonatal and adult rats are shown. Note that the inactivation of the current is slower in neonatal myocytes than in adult myocytes (Taken from ref. 5).

		cell capacitance (pF)	peak current (pA)	current density (pA/pF)
neonate	atrium	24 ± 0.8	92 ± 7	3.9 ± 0.3
	ventricle	27 ± 1.3	200 ± 13	7.6 ± 0.4
adult	atrium	46 ± 3	300 ± 35	6.4 ± 0.6
	ventricle	155 ± 10	1239 ± 115	8.1 ± 0.6

Table 1Cell capacitance, peak current, and current density of the L-type Ca2+ current
in neonatal and adult rat atrial and ventricular cells

 $Mean \pm SEM$

(Taken from ref. 21)

A. Atrium

B. Ventricle



Fig. 5 The effects of carbachol on the isoproterenol-stimulated L-type Ca²⁺ current in neonatal and adult rat atrial and ventricular myocytes. A: In atrial myocytes, carbachol inhibited the isoproterenol-stimulated L-type Ca²⁺ currents in neonatal and adult myocytes. B: In contrast, in ventricular myocytes, carbachol inhibited the isoproterenol-stimulated L-type Ca²⁺ current by 93% in neonatal cells but by only 25% in the adult cells (Modified from ref. 21).

より調節されている.

β受容体作動薬による調節

細胞膜上のβ受容体の数(密度)は、胎生期より 増加し新生仔期あるいは若年期にピークとなり、その 後徐々に減少すると報告されている¹⁸. β受容体作動 薬による Ca²⁺電流の増加は、受容体の数のみで規定 されるのではなく、細胞内の種々の調節因子により決 定されている. 作動薬がβ受容体に結合すると、促 進性 guanosine triphosphate (GTP) 結合蛋白 (Gs)を 介してアデニル酸シクラーゼを活性化し、adenosine triphosphate (ATP) から cyclic adenosine monophosphate (cAMP)を合成する. さらに cAMPdependent protein kinase (PKA)を活性化し、チャ ネルに結合している調節蛋白をリン酸化することによ り Ca²⁺チャネルを開く (slow pathway).別に、Gs 蛋白は直接 Ca²⁺チャネルを開くとも報告されている (fast pathway) (**Fig. 5**)¹⁹.

われわれの研究²⁰では, β 受容体作動薬であるイソ プロテレノールによる Ca²⁺電流の増加率は, 新生仔 の方が成獣より大きかった. アデニル酸シクラーゼを

Fig. 6 The schematic model of the mechanisms of adrenergic and cholinergic regulation of L-type Ca²⁺ channels. Binding of an antagonist (isoproterenol) to a β-adrenoceptor activates a guanine nucleotide binding protein (Gs protein). This protein stimulates adenylate cyclase (AC) and increases the level of cyclic adenosine monophosphate (cAMP). This process is followed by the phosphorylation of the L-type Ca²⁺ channel via cAMP-dependent protein kinase (PK-A), leading to an increase in channel open probability, mean open time, and channel availability. According to our experiments, in neonatal ventricular myocytes, Gs protein stimulated L-type Ca²⁺ channels directly. Muscarinic acetylcholine activation antagonizes the β-adrenergic stimulation of the L-type Ca²⁺ channel through inhibition of AC, which is mediated via the Gi protein.

直接刺激する薬であるフォルスコリンを用いた実験で は、新生仔と成獣間には明らかな差はなかったことか ら、新生仔では、Gs蛋白によるチャネルを直接刺激 する経路(fast pathway)が存在し、その経路は新生 仔の方が大きいことが考えられた(Fig. 5).

ムスカリン受容体作動薬による調節

アセチルコリンの最も大きな効果は心房筋、洞房結 節,房室結節におけるアセチルコリン感受性 K⁺チャ ネル (K_{Ach}) の開口である. このチャネルの開口によ り著明な活動電位の短縮ならびに心臓の徐脈を生じ る. Ca²⁺チャネルへの直接作用ではなく, その作用は 交感神経B刺激に対して拮抗的に作用することによ る. これはアデニル酸シクラーゼに対するG蛋白の 二重制御によるものである. 二重制御とは, アデニル 酸シクラーゼが促進性G蛋白(Gs)と抑制性G蛋白 (Gi) によって、プラスとマイナスの調節を受けてい ることをいう. すなわち, 心筋細胞では, β 受容体が Gs 蛋白と共役し、ムスカリン受容体が Gi 蛋白と共役 しており、β刺激により上昇した細胞内 cAMP を. アセチルコリンがβ刺激以前のレベルまで戻すこと になる. このように、アセチルコリンはβ受容体の 効果に拮抗する. このアデニル酸シクラーゼ調節系 は、すべての部分の心筋細胞に存在するが、特に心室 筋細胞でのアセチルコリン作用に重要である。

Fig. 6 はわれわれの実験結果を示したものであ る²¹. 安定性アセチルコリンであるカルバコールは, イソプロテレノールで増加した Ca²⁺電流を心房筋で は,新生仔,成獣ともほぼ100%抑制した.一方,心 室筋において,新生仔では,心房筋同様にほぼ100% 抑制したのに,成獣では,極めてその抑制効果が悪か った. 成獣心室筋細胞内に Gi 蛋白を入れると,カル バコールにより,成獣心室筋の Ca²⁺電流も新生仔心 室筋細胞同様著しく抑制された.このことより,心室 筋において新生仔は,成獣と違い副交感神経により交 換神経がより強く抑制されることが分かった.機序と しては,成獣では Gi 蛋白の減少により,副交感神経 による抑制が弱い可能性が示唆された.

タイロキンキナーゼによる調節

タイロキンキナーゼは、細胞の成長(周期)の調節 に関係していることが報告されている²². 冠動脈形成 術後の再狭窄は、血管平滑筋細胞の増殖ならびに肥大 によりおこるが、これらは各種成長因子により調節さ れており、これら成長因子とタイロキンキナーゼの関 係もすでに報告されている. タイロキンキナーゼの

Fig. 7 The effects of the tyrosine kinase inhibitor genistein on single-channel recordings of the L-type Ca²⁺ channel. Genistein inhibited channel opening (Taken from ref. 21).

Table 2Summary of the effects of genistein on the properties of single Ca2+ channels in
neonatal rat ventricular myocytes

	Slope Conductance (pS)	Po (%)	$m_o \ (ms)$	$m_c \ (ms)$
Control	24 ± 0.75	24 ± 3.8	10 ± 2.3	5.2 ± 0.71
Genistein	24 ± 0.27	$7.9\pm0.025^*$	13 ± 0.44	5.9 ± 0.32

Mean \pm S.E.M.

Po: open probability; mo: mean open time; mc: mean closed time

*: P < 0.05 compared with control

(Taken from ref. 24)

イオンチャネルの調節は、平滑筋のみならず心室筋に おいても各種イオンチャネルを調節しているとの報告 がある³³. そこで成長途上にある未熟心筋は、タイロ キンキナーゼにより著しく調節されているのではない か、との仮説のもと Ca²⁺電流のタイロキンキナーゼ による調節について実験をおこなった.

タイロキンキナーゼ抑制剤であるジェニスタインに より Ca²⁺電流は抑制され,その抑制率は新生仔が成 獣に比較し大きく,未熟心筋ほどタイロキンキナーゼ により強く調節を受けていた (Fig. 7).タイロキン キナーゼの Ca²⁺チャネルへの作用機序としては, Single-channel 記録による解析により,チャネルの平 均開口・閉鎖時間,コンダンクタンスには影響せず, チャネルの開口確率の増加することが分かった (Table 2)²⁴.

T 型 Ca²⁺チャネル電流

鶏の胎生早期から後期にかけて,T型Ca²⁺電流は 発達に伴って大きく減少する⁶.また,ラット心室筋 でも新生仔には,T型Ca²⁺電流は観察されるが,成 獣では観察されない.心室筋におけるT型Ca²⁺チャ ネルの機能的役割に関しては,未熟心筋においてもい まだ不明な点が多いが,ペースメーカー電位への貢献 が考えられている.すなわち,未熟な心室筋が自動能 を発揮するには,このT型Ca²⁺チャネルの役割によ るところが大きいと考えられる.

まとめ

本稿では, 電気生理学的側面より, 主に心室筋 Ca²⁺

電流の胎児から新生仔,成獣へと発達に伴う変化について述べたが,これら電流の違いには,当然チャネル を構成するサブユニットの違いのみならず,細胞内器 官,代謝系の違い等各種の要素が関連している.

われわれの研究からも明らかなように、われわれが 日々診療する新生児、乳児、小児は成人と比較し、そ の大きさが小さいというのではなく、各臓器の性質・ 特性が大きく成人と異なる点をもう一度記憶に留めて おく必要があると考える.臨床に携わるものとして、 これら基礎医学で得られた知識を臨床に還元できるよ うに今後も努力したい.

文 献

- Sperelakis N, Katsube Y, Sada H, Masuda H: Developing changes in ionic currents of the heart. In The Developing Heart (Ostadal, Nagano, Takeda, Dhalla, eds), Chapter 13, 1997; pp 14–171, Lippincott-Raven Publishers, Philadelphia.
- Masuda H, Sumii K, Sperelakis N: Long openings of calcium channels in fetal rat ventricular cardiomyocytes. Pflügers Arch 1995; 429: 595–597.
- Huynh TV, Chen F, Wetzel GT, Friedman WF, Klitzner TS: Developmental changes in membrane Ca²⁺ and K⁺ currents in fetal, neonatal, and adult rabbit ventricular myocytes. Circ Res 1992; 70: 508– 515.
- Tohse N, Mészáros J, Sperelakis N: Developmental changes in long-opening behavior of L-type Ca²⁺ channels in embryonic chick heart cells. Circ Res 1992; 71: 376–384.
- Katsube Y, Yokoshiki H, Nguyen L, Yamamoto M, Sperelakis N: L-type Ca²⁺ currents in ventricular myocytes from neonatal and adult rat. Can J Physiol Pharmacol 1998; 76: 873–881.
- Creazzo TL, Burch J: Calcium current development in the embryonic chick heart. Biphys J 1994; 66: A423 (abst).
- Wetzel GT, Chen F, Klitzner TS: Na⁺/Ca²⁺ exchange and cell contraction in isolated neonatal and adult rabbit cardiac myocytes. Am J Physiol 1995; 268: H1723–H1733.
- Hanson GL, Schilling WP, Michael LH: Sodiumpotassium pump and sodium-calcium exchange in adult and neonatal canine cardiac sarcolemma. Am J Physiol 1993; 264: H320–H326.
- Wahler GM, Dollinger SJ, Smith JM, Flemal KL: Time course of postnatal changes in rat heart action potential and in transient outward current is different. Am J Physiol 1994; 267: H1157–H1166.
- Masuda H, Sperelakis N: Inwardly-rectifying potassium current in rat fetal and neonatal ventricular cardiomyocytes. Am J Physiol 1993; 265: H1107–H1111.
- 11. Xie LH, Takano M, Noma A: Developmental of inwardly rectifying K⁺ channel family in rat

ventricular myocytes. Am J Physiol 1997; 272: H1741–H1750.

- Hajikano M, Katsube Y, Watanabe M, Ikegami E, Uchikoba Y, Kamisago M, Fukazawa R, Ogawa S: Diazoxide increases ATP-sensitive K⁺ current of neonatal rat ventricular myocytes. J Mol Cell Cardiol 2003; 35: A31 (abst).
- Conforti L, Tohse N, Sperelakis N: Tetrodotoxinsensitive sodium current in rat fetal ventricular myocytes: contribution to the plateau phase of action potential. J Mol Cell Cardiol 1993; 25: 159–173.
- Crumb WJ, Pigott JD, Clarkson CW: Comparison of Ito in young and adult human atrial myocytes: evidence for developmental changes. Am J Physiol 1995; 268: H1335–H1342.
- Qu Y, Boutjdir M: Gene expression of SERCA 2a and L- and T-type Ca channels during human heart development. Pediatr Res 2001; 50: 569–574.
- Langer GA, Brady AJ, Tan ST, Serena SD: Correlation of the glycoside response, the force staircase and the action potential configulation in the neonatal rat heart. Circ Res 1975; 36: 744–752.
- Nakanishi T, Seguchi M, Takao A: Development of the myocardial contractile system. Experientia 1988; 44: 936–944.
- Kojima M, Ishima T, Taniguchi N, Kimura K, Sada H, Sperelakis N: Developmental changes in βadrenoceptors, muscarinic cholinoceptors and Ca²⁺ channels in rat ventricular muscles. Br J Pharmacol 1990; 99: 334–339.
- Yatani A, Codina J, Imoto Y, Reeves JP, Birnbaumer L, Brown AM: A G protein directly regulates mammalian cardiac calcium channels. Science 1987; 238: 1288–1292.
- Katsube Y, Yokoshiki H, Nguyen L, Sperelakis N: Differences in isoproterenol stimulation of Ca²⁺ current of rat ventricular myocytes in neonatal compared to adult. Eur J Pharmacol 1996; 317: 391– 400.
- Katsube Y, Yokoshiki H, Sunagawa M, Seki T, Yamamoto M, Sperelakis N: Carbachol inhibition of Ca²⁺ currents in ventricular cells obtained from neonatal and adult rats. Eur J Pharmacol 1998; 358: 269–275.
- Maher PA: Tissue-dependent regulation of protein tyrosine kinase activity during embryonic development. J Cell Biol 1991; 112: 955–963.
- Yokoshiki H, Sumii K, Sperelakis N: Inhibition of Ltype calcium current in rat ventricular cells by the tyrosine kinase inhibitor, genistein and its inactive analog, daidzein. J Mol Cell Cardiol 1996; 28: 807–814.
- 24. Katsube Y, Yokoshiki H, Nguyen L, Yamamoto M, Sperelakis N: Inhibition of Ca²⁺ current in neonatal and adult rat ventricular myocytes by the tyrosine kinase inhibitor, genistein. Eur J Pharmacol 1998; 345: 309–314.

(受付:2005年10月4日) (受理:2005年11月29日)